

# MONEX Global Retail Investor Survey



September 2011

MONEX グローバル投資家サーベイ 2011年9月調査

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

個人投資家の皆様の相場環境に対する意識調査のため、2011年9月22日～9月26日にマネックス証券に口座をお持ちのお客様向けにアンケートを実施しました。ご回答くださった皆様には、ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございます。

今回は、グループ企業である、トレードステーション証券（米国）、マネックス BOOM 証券（香港）の個人投資家の皆様にも、同様のアンケートを行い、「MONEX グローバル投資家サーベイ」として調査結果をまとめました。

「今、個人投資家の皆様が相場をどのようにとらえているか」 グローバルな視点での情報提供が資産運用の一助となれば幸いです。

「MONEX 個人投資家サーベイ」は、2009年10月に第1回サーベイを行い、月次で公表しております。

（※2011年3月は東日本大震災の状況を鑑み、アンケートを実施しておりません。）

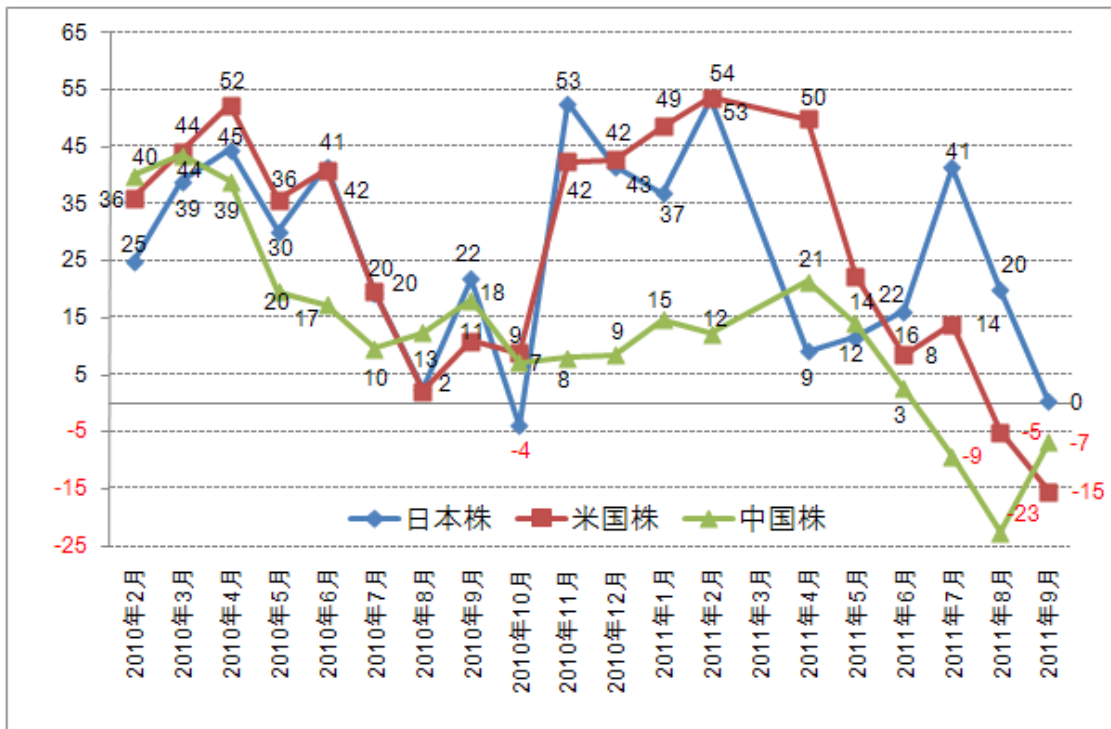
「MONEX グローバル投資家サーベイ」は、2011年6月より開始し、四半期ごとに公表しております。

■ 調査結果

1 株式市場を取り巻く環境について

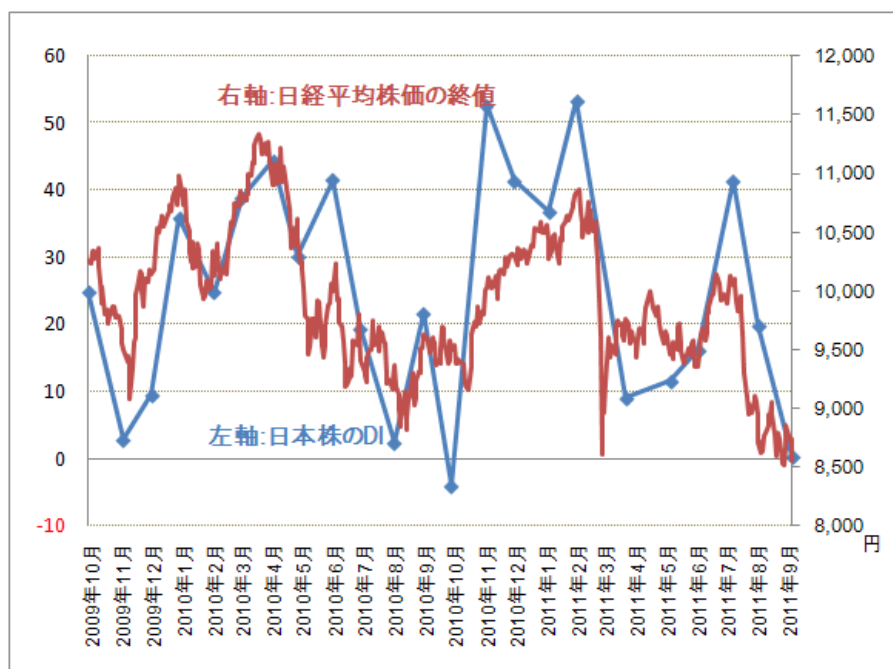
(1) 今後3ヶ月程度の株価予想

日本の個人投資家における日本株、米国株、中国株のDI推移 グラフ①



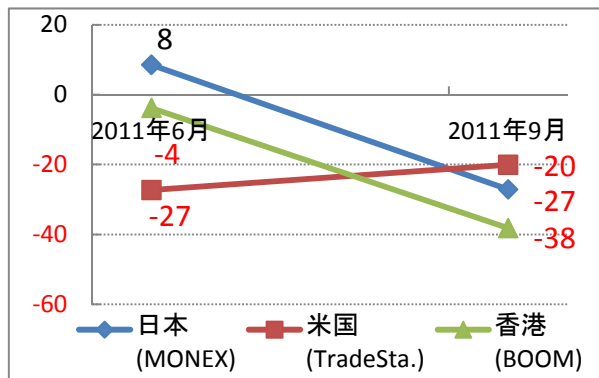
日本株、米国株ともにDI(※)が低下、日本株は過去2番目に低い0、米国株については、過去最低の-15をマーク。中国株は-7と、前月から16ポイント上昇したもののマイナス値のままとなりました。(※DI:「上昇する」と回答した%から「下落する」と回答した%を引いたポイント)

日経平均株価(終値)と日本株DIの推移 グラフ②



なお、世界の株式市場全般について3ヶ月先の相場見通しを日本、米国、香港の投資家に質問したところ、共にマイナス値をマークし悲観的な見方が大勢を占めました。しかし米国投資家のDIについては、前回より7ポイント増加しています。

個人投資家の株式市場に対する見通し(グローバル) グラフ③

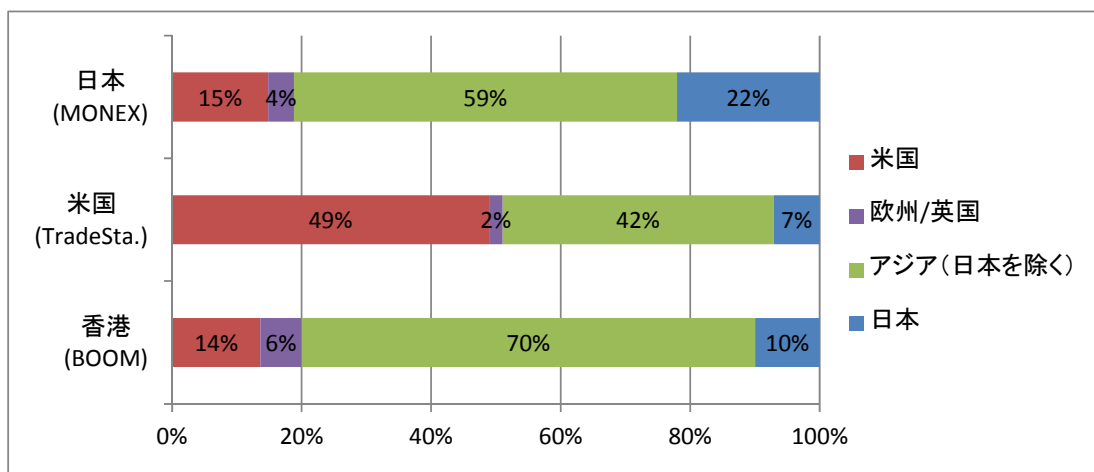


日本の投資家	-27 (+8)
米国の投資家	-20 (-27)
香港の投資家	-38 (-4)

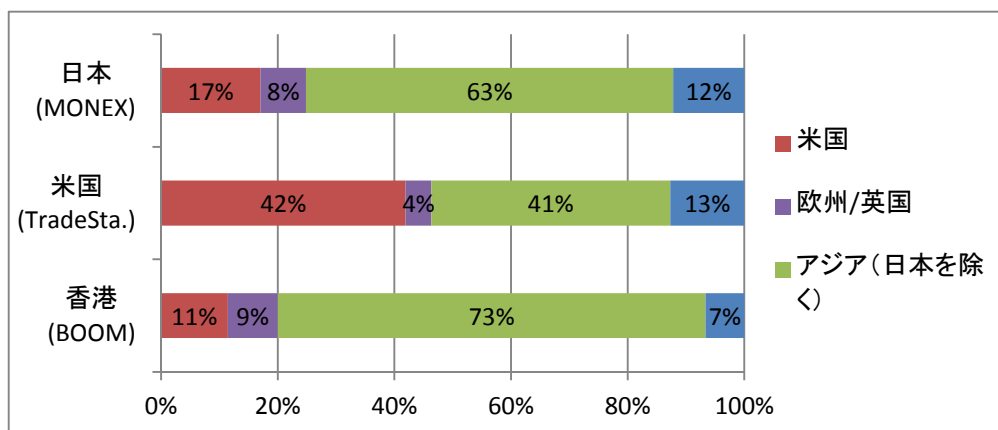
\*カッコ内は前回調査(2011年6月)の数値

\*日本の前回は米国株に対する見通し(DI)

(2) どの地域の株価に今後3ヶ月最も期待できるか(グローバル) グラフ④



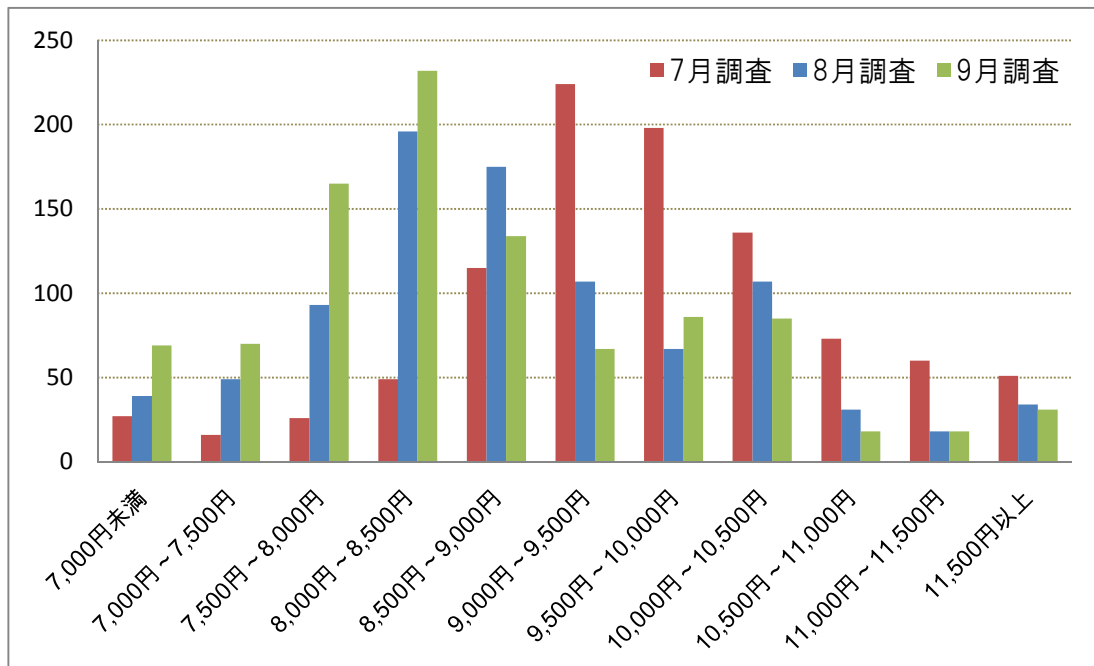
前回結果(2011年6月)



総じてアジア株への期待が強いのは前回と変わらずの結果となりました。日本の投資家の日本株への見通し、米国の投資家の米国株へ見通しがそれぞれ増加しています。

(3) 日本株を買いたい水準

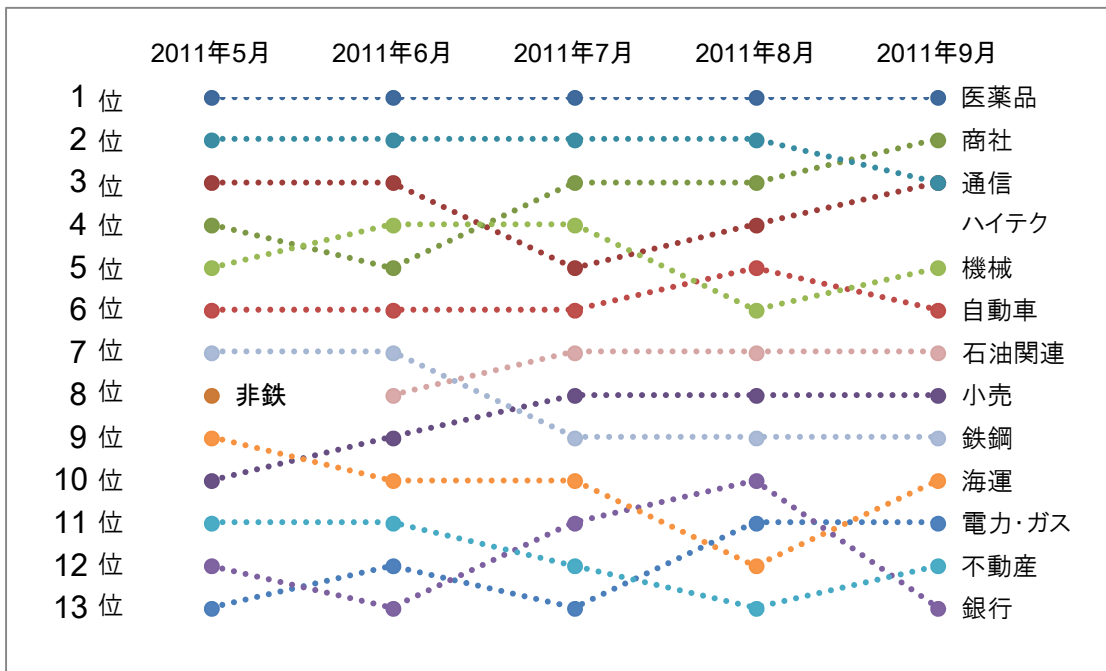
日経平均株価がどの水準であれば、日本株を買いたいと思いますか？ グラフ⑤



日本株を買いしたい株価を 7,500 円～8,500 円の水準とする方が大きく増加しています。

(4) 日本市場の各業種に対する今後 3 ヶ月程度の見通し

日本投資家の「魅力的であると思う業種」ランキング グラフ⑥



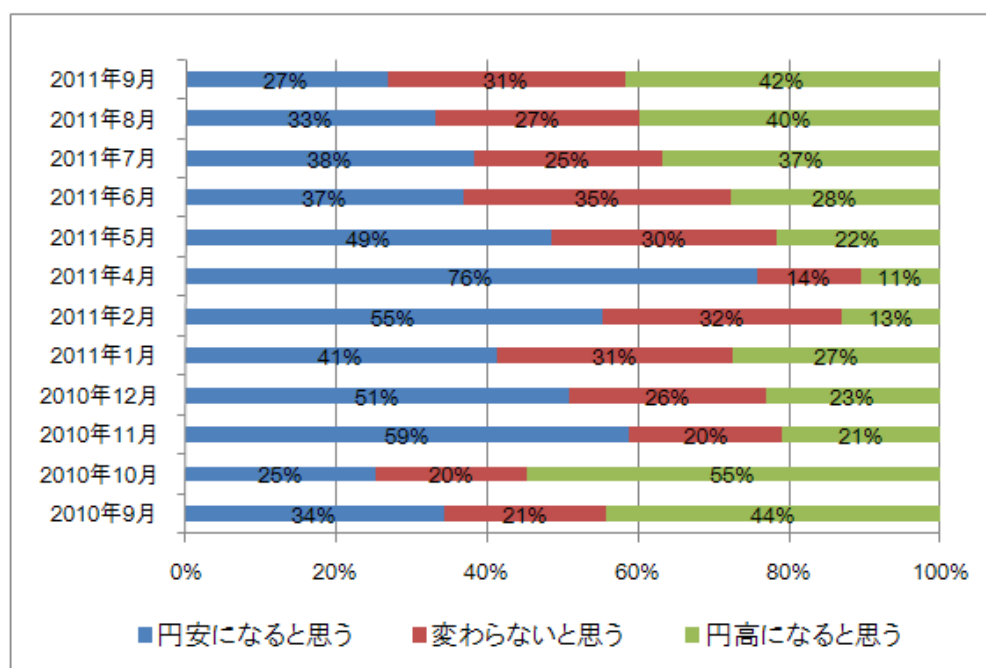
1位の医薬品は今月も健在。2位をキープしていたハイテクが通信と並び3位に。代わりに商社が2位に上昇しました。前回10位の銀行は、最下位となっています。なお、米国、香港の投資家に株式市場への業種見通しを聞いた結果は以下の通り、前回(2011年6月)、米国で5位、香港で6位だった公益(Utilities)が共に1位となっています。

米国、香港投資家の「魅力的であると思う業種」ランキング グラフ⑦

米国		香港
1位	公益 (Utilities)	公益
2位	エネルギー (Energy)	ヘルスケア
3位	テクノロジー (Technology)	素材
4位	素材 (Basic Materials)	テクノロジー
5位	ヘルスケア (Healthcare)	電気通信
6位	電気通信 (Telecommunications)	エネルギー
7位	一般消費財 (Consumer Goods)	一般消費財
8位	耐久消費財 (Industrial Goods)	サービス
9位	サービス (Services)	輸送
10位	輸送 (Transportation)	金融
11位	複合企業 (Conglomerates)	複合企業
12位	金融 (Financial Services)	耐久消費財
13位	自動車 (Autos)	不動産
14位	不動産 (Real Estate)	自動車

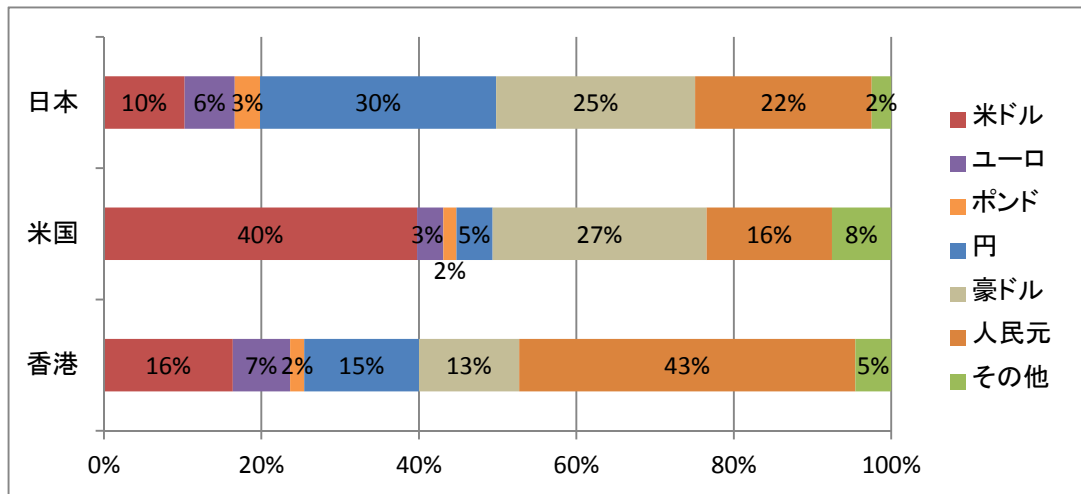
**2** 為替市場、商品市況について

(1) 今後の3ヶ月程度の米ドル/円相場予想 グラフ⑧

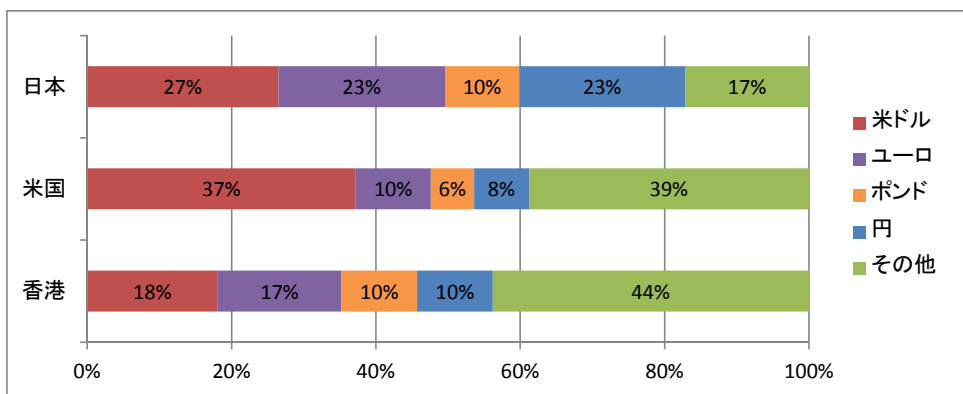


引き続き円高を予想される方が微増しています。「変わらない」とする方もともに増加傾向にあります。

(2) 今後の3ヶ月でどの通貨が最も上昇するか(グローバル) グラフ⑨

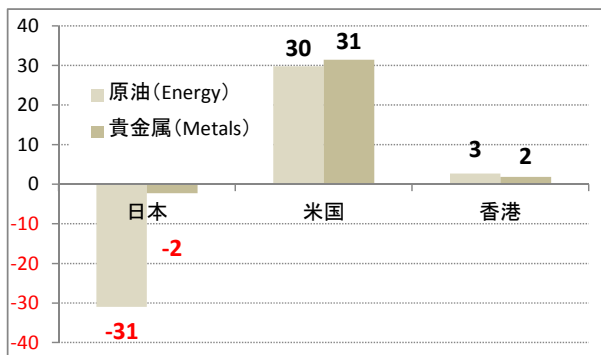


前回結果(2011年6月) ※豪ドル、人民元はその他に含む



ユーロと回答した方の比率が総じて減少しました。米ドルと回答した割合は日本、香港が減少したのに対して、米国のみ増加傾向がみられます。人民元と回答した比率はとくに香港で高い傾向にあります。「その他」内訳はスイスフラン、ブラジルリアル、シンガポールドルなどが挙げられました。

(3) 今後の3ヶ月の商品市況の見通し(グローバル) グラフ⑩



原油(Energy)

日本の投資家	-31 (-3)
米国の投資家	+30 (+26)
香港の投資家	+3 (+37)

貴金属(Metals)

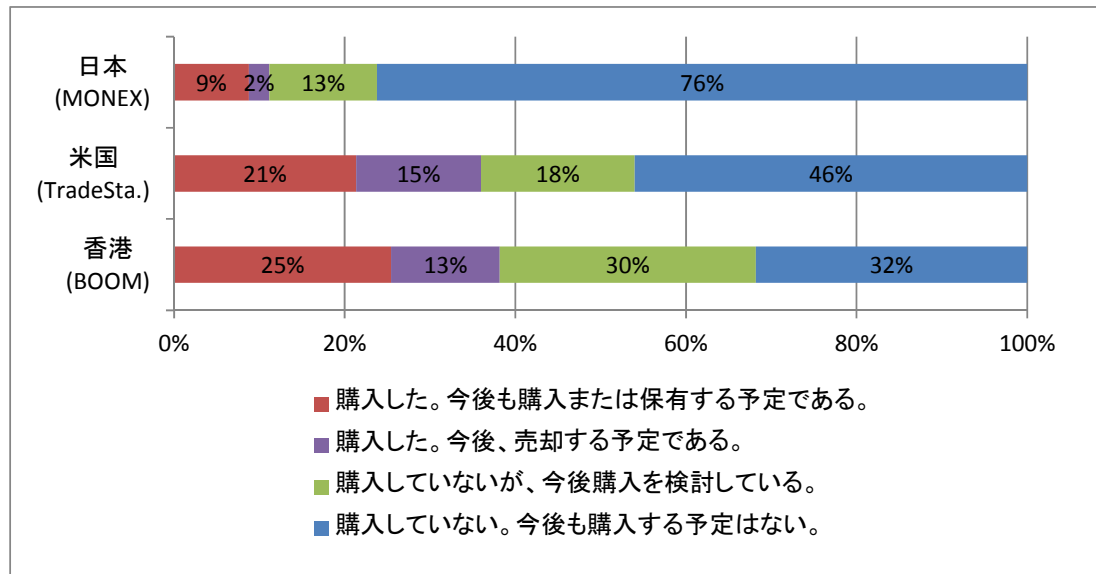
日本の投資家	-2 (+23)
米国の投資家	+31 (+2)
香港の投資家	+2 (+41)

\*カッコ内は前回(2011年6月)の数値

原油の見通しについて、日本・香港ともに弱気のDI値となったのに対し、米国の個人投

資家は、引き続き強気の結果となりました。貴金属に対する見通しも、日本・香港ともに弱気のDI値となりましたが、米国の個人投資家は明るい見通しを持っており、DI値も前回調査比で29ポイント増加しました。

#### 金の価格が高騰していますが、過去3ヶ月以内に金や金関連の商品を購入しましたか？ グラフ⑪



高騰した金、金関連商品を購入または今後購入したいとする割合が過半数を超えた米国、香港の投資家に対し、日本の投資家は24%に留まりました。

## ■ 総括

マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆

四半期毎に行う「MONEX グローバル投資家サーベイ」、第2回目の結果をお届けします。

今回のサーベイは、欧州債務不安・世界経済悪化の懸念から金融市場の動揺が収まらないなかでの調査となりました。当然のように投資家の株式市場に対する見通しは悲観的な見方が大勢を占めました。グラフ③にある通り、世界の株式市場全般に対するDIは日本、米国、香港といずれも大幅なマイナスの値となりました。但し、前回との比較という点では違いが見られます。DIの値は日本、香港とも同程度（約35ポイント）悪化していますが、米国は逆にマイナス幅が縮小しています。投資環境は悪く先行きに対してネガティブな見通しをもっていることは変わらないとしても、株式市場が大幅に下落したことで、ここから一段の下値には限りがあると見ているのかもしれませんが。前回6月の調査時点では日本が+8、香港が-4と比較的中立に近い見方をしていたのに対して米国の投資家だけが-27と極端に弱気な見方をしていました。その後の株式市場の急落はご覧の通りです。その意味では米国投資家の見方は先見性があったと言えそうです。まだ信頼に足るデータの蓄積が出来ていない状態では早計ですが、株式市場の方向性を占う先行指標として使える可能性があり、今後も注意深くモニターしていきたい項目です。

地域別株価の見通し（グラフ④）も変化が見られました。日本、米国、香港とも経済成長著しいアジア地域のウェイトが大きいことは前回と変わりませんでした。相場下落で自国市場への期待が増加しました。日本がもっとも期待できるとした日本の投資家の回答は22%と前回の12%から10ポイント増加し、米国でも米国市場が期待できるとした回答が増加しました。

業種別魅力度ランキング（グラフ⑦）で興味深かった点は、米国と香港の投資家の考え方が非常に似通っている点です。世界景気に対する不安の高まりからディフェンシブ業種である公益セクターがともに大幅に順位を上げて1位となったことは象徴的ですが、他の業種のランクもだいたい同じような水準にあります。上位に共通な業種としてはテクノロジー、素材、ヘルスケア、電気通信で中位には一般消費財、サービス、輸送など。自動車、不動産、複合企業、金融のランクが低いのも共通です。

今回加えた新しい質問で、かつもっとも印象的だったのが最後の「金や金関連の商品を購入しましたか？」（グラフ⑩）というものです。購入した、または購入を検討している、との比率が過半数を超えた米国、香港の投資家に対して日本では実に4分の3以上の投資家が購入していないし、今後も購入する予定はないと回答しています。先日来からメディアの報道でも金製品や金の地金の買い取りが人気で貴金属店の店頭で長蛇の列ができています。世界の投資家が金の購入に走る中、日本人だけが今が高値と見て金を売りに廻っているのです。これは日本の特異な状況をよく表すものとして象徴的です。すなわちデフレの日本にあっては「キャッシュ・イズ・キング（現金が王様）」であり、金よりも現金のほうが光り輝いて見えるということなのです。

今回も皆様方のご協力で、大変貴重なデータを作成・分析することができました。本当にありがとうございました。今回のサーベイが個人投資家の皆様方の投資判断の一助となれば幸いです。

（マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆）

## ■ 調査の概要と回答者の属性

（日本）

調査方式： インターネット調査  
調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家  
回答数： 1,084 件  
調査期間： 2011年9月22日～9月26日



## 【性別】

男性	女性
81.4%	18.6%

## 【年齢】

未成年	20代	30代	40代	50代	60代	70歳超
0.5%	5.2%	21.5%	33.9%	18.8%	15.1%	5.1%

## 【金融資産】

500万未満	500万 ～1000万	1000万 ～2000万	2000万 ～5000万	5000万 ～1億	1億以上
30.6%	21.7%	21.4%	19.5%	5.4%	1.4%

## 【売買頻度】

デイトレ	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
6.2%	12.2%	29.9%	29.1%	22.7%

## 【株式投資のご経験】

1年未満	2年～5年	5年～10年	10年以上
6.9%	24.8%	28.2%	40.0%

## （米国）

調査方式： インターネット調査  
 調査対象： トレードステーション証券でお取引をする個人投資家  
 回答数： 239件  
 調査期間： 2011年9月6日～9月16日

## （香港）

調査方式： インターネット調査  
 調査対象： マネックス BOOM 証券でお取引をする個人投資家  
 回答数： 110件  
 調査期間： 2011年9月16日～9月26日

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したものではなく、また示唆するものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

## マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号  
 加入協会：日本証券業協会、（社）金融先物取引業協会